

のびる

令和7年9月25日
真岡市教育委員会

～みんながって、みんないい～

真岡市教育委員会 学校教育課心理相談員

はじめに

真岡市心理相談員の紹介をします。現在、真岡市心理相談員は二名体制です。職務の一番の目的は、真岡市のお子様の健やかな成長のための後方支援です。ご家庭で、学校で、困ったことがある時に相談を承っています。

①心理的支援が必要な小中学生及び保護者を対象にした面談

②小中学生の発達に関する検査

③小学校就学前の相談、検査等が主な仕事になります。

心理相談員が保護者様にお会いするのは、お子様の検査をし、その結果をお返しする機会が最も多いように思います。

今回は、真岡市心理相談員が実施しているいくつかの検査の中で、WISC検査について説明します。

WISC（ウィスク）検査

小学生・中学生が受けることが最も多い知能検査です。検査者と

一対一で行います。この検査はお子様の知能特性を知ることが特徴です。学校やご家庭で困ったことがある場合に、それが発達の凸凹が原因なのか、どんな特性があるのかを調べるための検査です。（以下、具体的な例で説明します。本来のケースとは内容を多少変えています）



長沼小 1年 児童

①小学校三年男子Aさんのケース

Aさんは毎日楽しく学校に通っています。Aさんは毎日楽しく学校に通っています。忘れ物、失くし物が多く、いつも叱られています。授業中はなぜかみんなからテンポが遅れてしまいます。漢字練習は自分なりに懸命にやりますが、テストの点は悪くなっています。「やる気がない」とお家の人に注意されたAさんは「それなら学校には行かない」と宣言してしまいました。

ました。困った保護者様からのご相談で検査をすることになりました。

AさんのWISC検査の結果では、記憶に関わる「ワーキングメモリ」という指標が非常に弱い結果となりました。忘れ物や持ち物の管理ができないことや授業中に先生のお話しがしつかり入らずテンポが遅れることは、ワーキングメモリの弱さと考えられます。一旦学習して理解してもワーキングメモリの弱さから、すぐに忘れてしまう場合もあるようです。

Aさんの場合には、忘れ物防止のために、見て確かめることを実施しました。持ち物を毎日ホワイボードに書き出して、自分で見て確認することを心がけ、荷物は布のお手提げではなく、透明のバックに変えて中身が外からでも見えるように工夫してもらいました。

また、授業中は席を最前列に変えてもらい、先生はみんなに一斉の指示を出した後にAさんに確認



山前小 5年 児童

の一言をかけるようにしてくれました。

漢字の苦手さについては、「手が覚えるまでたくさん書いて覚える」方法はAさんには効果的ではないと考え、漢字の成り立ちを覚えたり、漢字を部品に分けて覚えたりする方法を提案しました。例えば「木の上に立って見るから『親』と覚えるのです。たくさん書いて練習しなくても、この方法で漢字の成り立ちを考えながら数回書けば覚えられることを試してもらいました。

基本的に子どもは「やる気」のかたまりであると思っています。上手くいかない理由がわかれば、本人の「やる気」に責任を負わせなくても良いのです。

② 小学校6年女子Bさんのケース

Bさんは勉強が嫌いではありません。でも授業を受けていると時々頭が痛くなってきました。ズキズキして保健室で休むことが多くなってきました。頭痛は薬を飲めば痛みが和らぐ気がする程度です。先生によれば教室では友達とのトラブルもなく、休み時間には楽しそうに過ごしているということでした。Bさん自身は、授業中に字のバランスが悪くなり、ノートがきれいに書けず時間がかかることが気になっているとのことでした。

BさんのWISC検査の結果では「視空間」という目で見て空間を把握する力を示す指標が非常に弱い結果となりました。この力が弱い人は、遠くの黒板と手元のノートを繰り返し行き来して見ることが苦手になる場合があります。Bさんは高学年になり学習内容が増え、板書の量が多くなった頃から頭痛が増えてきたということから、板書を写すことで頭痛が誘発されているのではと予想しました。

またBさんは、小さい頃にひらがなを鏡文字で書くことが多かったといえます。これも視空間指標の弱さから起きていたことかもしれません。

そこでBさんには、板書をタブレットで撮影して、それをノートの横に置いて写すようにしてもらいました。それに加えて眼の「ビジョントレーニング」を行ってもらいました。すぐに改善するわけではないようですが、Bさんは引き続きトレーニングに取り組んでいます。

おわりに

WISC検査では、AさんBさんの苦手な指標の他にもいくつかの指標を測っています。

これらの発達の凸凹はだれにでもあるものです。何とか苦手を得意でカバーしながら成長できれば、それでいいのです。みんなちがって、みんないいのです。

検査によって、「何となく」の特性がはっきりとわかるようになる

と、失敗を繰り返して自信を失ってしまいう前に対策を考える一助になると考えています。

このように心理相談員の行う発達に関わる検査は、数値を出すことだけが目的ではありません。お子様の困っていることの原因を探し、その対策を考えるために実施しています。

私たちは真岡市のお子様方が自分のペースで健やかな成長発達を遂げるための応援団として、成長の道をまっしぐらに走っているお子様が進むことに困っている時、行き詰まって立ち止まっている時に、今後も後方支援を続けていきたいと思っています。

こちらの家庭教育通信をお読みいただいたご感想をお聞かせください！



真岡市では家庭教育について情報を発信しています！ご覧いただき、ぜひご活用ください。



ログイン不要で送信できるびゅん！

感想をお待ちしております♪

